

## 第4回少人数教育推進検討委員会

日 時：令和6年10月24日（木）  
午前10時～  
会 場：防災新館303、304会議室

### 【次 第】

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告

第3回少人数教育推進検討委員会の概要について 資料1

4 議題

令和6年度少人数教育推進検討委員会報告書（案）について 資料2

5 その他

6 閉 会

## 第 3 回少人数教育推進検討委員会（9 月 19 日）の概要

## 1 報告事項

第 2 回少人数教育推進検討委員会の概要について報告

## 2 議題 小学校 5 年生以降の 25 人学級の導入について

## (1) 方向性について

## ○ 教員確保ができる最大人数での少人数学級の実施

欠員が発生しうる当面の間は、制度としての 25 人学級を維持しながら、国の基準を上回る基準（26 人から 30 人程度）により、教員確保ができる最大人数での少人数学級を実施する。

## (主な意見)

- ・ 25 人学級を継続していくことが、山梨の子供たちのため、そして山梨の教育振興のためには必要と考える。
- ・ 25 人学級を継続していく理由として、未来の予測が難しい状況にあっても、子供たちが学校で学びたいと思える魅力ある山梨の教育を創り出すことを表現した方が夢がある。
- ・ 長い歴史を持つ山梨の少人数教育を継続すべきであり、この流れを止めるべきではない。課題については、柔軟な対応、弾力的な運用をキーワードに対応していくべきである。
- ・ 少人数教育は山梨教育の魅力であり、山梨で働きたい教職員や山梨で子供を学ばせたいという方が増えるのではないか。
- ・ 教員確保ができるなら 25 人学級を進めてもらいたい。加配は本当に各学校の戦力となっているため、加配の教員も確保してもらいたい。年度途中で傷病とか産休とか代替の先生の確保に苦労している。
- ・ 少人数教育を推進するために必要となる教員数のシミュレーションを継続し、欠員補充のためのゆとりある配置をしてもらいたい。
- ・ 25 人学級は他県にない山梨ならではの取り組みであり、当面、26 人から 30 人程度での少人数学級を推進するのであれば、保護者の方にも分かりやすい名前をつけるのはどうか。
- ・ 山梨の教育はどういう教育をしたいのか、どういう子供を育てたいのかという教育の理念が大切である。

など

## (2) 課題への対応について

### ○ 教員確保について

- ・ 0.7、0.75 といった多様な勤務形態の導入（アクティブ加配）
- ・ 特別免許状による外部人材の活用
- ・ 免許を持たない地域の人材を暫定的にアクティブ加配に活用

### (主な意見)

- ・ 1日勤務は困難であるが0.7や0.75の勤務なら可能な教員がいるのではないかと考える。
- ・ 多様な勤務形態の導入を支持し、早期に施策を実施することを希望する。
- ・ 外部人材や免許を持たない地域の人材など、多様な方が学校に入るメリットは大きい。不登校の子供の受け入れなど、コミュニティ・スクールを活用して柔軟な学校運営が求められている。
- ・ 大学生が教育ボランティアとして学校に入り、支援が必要な子供に寄り添って対応している。大学生も先生方の助けになればと考える。
- ・ 大学で山梨県の教員になるためのプログラムを開設している。今後、地域枠も設け、専門性の高い教員を養成していきたい。
- ・ 地域の方など外部人材を活用して、魅力ある山梨の教育を推進してほしい。
- ・ 初任者は校務分掌を減らすなど業務を配慮することで山梨県が教員を大事に育てている、早期の離職者をできるだけ出さない、というメッセージを発信することが教員の確保につながるのではないかと考える。
- ・ 早期退職者数や特別支援学級数について、早い段階で把握する必要がある。

など

### ○ 教員不足による影響への対応について

- ・ アクティブクラスを実施する際の要件の緩和

### (主な意見)

- ・ アクティブクラスの運用に関する柔軟な対応と保護者への周知をお願いしたい。
- ・ アクティブクラスの対象学年の要件の緩和についても検討してもらいたい。

など

### (3) 報告書骨子（案）について

#### (主な意見)

- ・ 一般の方や保護者への少人数教育の理解が促進され、施策が円滑に進むように丁寧な発信の仕方を検討してもらいたい。
- ・ 今回の報告書にも、「本県の少人数教育の取り組みを広く県民に知ってもらうために」という項目を盛り込むべきである。
- ・ 報告書の中に、山梨の教育の魅力を盛り込み、オール山梨で少人数教育に取り組んでいることを記載して発信してもらいたい。

など